

複合動詞の意味理解方略の実態と習得困難点

松田 文子

要 旨

複合動詞は語彙の中でも習得が困難な項目の一つであることが指摘されている。しかし今までのところ、学習者は複合動詞の意味理解にどのような方略を用い、どのように接近しているのかについては明らかにされていない。またその困難点についてもまだ十分な知見が得られているとはいえない状況にある。本稿はこれらの点を探ろうとする探索的な試みである。

具体的には最も生産性が高いとされる後項動詞「～込む」を取り上げ、「～込む」と結合する複合動詞 24 語を調査項目とした。調査の結果、24 語に対する意味理解方略は概ね、「V1 の意味に V2 の意味を足す」というものであった。しかし「V1+V2」方略はかならずしも成功するものではなく、「入り込む」のように V1 も V2 も「中にはいる」という類似した意味をあらわす結合の場合、また「泳ぎ込む、読み込む」のように「V1+V2」方略が使えない語の場合、習得は困難であることがわかった。

【キーワード】複合動詞、意味理解方略、習得困難点

1. はじめに

複合動詞の習得は上級になっても容易ではないことが指摘されている(森田 1987、姫野 1999)。習得が困難な主な理由としては、次の三点が考えられる。

- (1) 「～込む」や「～出す」など多くの前項動詞と結合する生産性の高い後項動詞の意味は前接する前項動詞によって異なり、多義的である。
- (2) 一般的には、複合動詞は他の技能(読解)と併せて指導される偶発学習(incidental learning Clark 1993)に委ねられることが多いが、偶発学習では単純動詞と複合動詞の意味的差異が理解が十分に理解されないまま処理されやすい(たとえば、「教室にネコが入り込んだ」という文脈にあらわれた「入り込む」を「入った」とあまり変らない意味だと理解してしまう)。

(3)複合動詞は表現を豊かにするものではあるが、使わなくても意味は通じることが多いことから、使用回避(avoidance)につながり易い。

しかし、複合動詞は習得が困難な項目の一つであることは一致した見方であるとしても、今までのところその習得困難点が具体的に明らかになっているとはいえない状況である。いうまでもなく複合動詞は前項動詞V1と後項動詞V2の二つの動詞からなり、その意味はV1の意味とV2の意味の引き込み合いによって成立する。たとえば「殴り殺す」「押し倒す」などは「殴って殺す」「押して倒す」のようにV1の意味とV2の意味を加算することによって実現する。これらの後項動詞の意味は単義的であり、学習者にとって習得は比較的容易であることが推測される。しかし「～込む」「～出す」のようにさまざまな前項動詞と結合し、結合する動詞によってその意味が異なるいわゆる高生産性後項動詞の場合はどうであろうか。たとえば「飛び込む」は「飛ぶ」と「込む」から成り、「込む」の意味は「中へ入る」という意味であるから「飛び込む」は「飛んで、中へ入る」であると理解したとしよう。ところが「冷え込む」「黙り込む」「泳ぎ込む」「思い込む」などのように「～込む」の意味は前接する前項動詞によって多義的である。日本語非母語話者（以下、非母語話者）は、このような複雑な様相を呈する高生産性複合動詞にどのようにアプローチしているのだろうか。またさまざまな意味のうち、どの側面がむずかしいのだろうか。これらの点を明らかにすることは複合動詞の指導を考える際極めて重要であると思われるが、今までのところ十分な知見は得られているとはいえない。本稿は、複合動詞教育の基礎研究として、これらの点を明らかにしようとする探索的な試みである。本稿の研究課題は次の二点である。

- (1)非母語話者は複合動詞の意味理解にどのような方略を用いてアプローチするのか。
- (2)「～込む」の多義的意味のうち、どのような側面がむずかしいか。

2. 研究方法

2-1. データの収集方法

一人ずつの個別インタビューにより、下記24語を順番に「文字と音声で」提示し、当該語一語ずつについて理解の際にどのような方法を用いているかあるいはどう処理したかのプロトコルを求めた。一人に要したインタビュー時間は30分～1時間で

あった。インタビューの内容はすべてテープに録音し、それを分析データとした。
以下に質問項目を示す。

- 質問項目：
1. このことばの意味を知っていますか。
 2. (「1」で「知らない」と答えた場合) このことばはどんな意味だと思いますか。
 3. このことばを使って文を作ってください。
 4. 「3」で作った文は単純語(例:「書きこむ」に対して「書く」)で言い換えてもいいですか。
 5. (「いいえ」と答えた人に) どうして言い換えられないと思いますか。
 6. 新しい複合動詞に出会って、意味を知りたいときどうしますか。方法を教えてください。
 7. その方法は役に立つ／効果的だと思いますか。
- (注：6, 7は全体的な質問である。)

2-2 被調査者

今回の調査は探索的な試みであることから、日本語学習の成功者である超上級者三名を調査対象者とした。また今回のインタビューは長時間にわたるものであり、長時間のインタビューに答えてもらいなおかつ信頼できる答えを引き出すためには調査者との信頼関係が大切である。そこで筆者とは大学院の同級生として親密な関係にあり、信頼度は高いといえるお茶の水女子大学大学院に在籍する留学生三人(タイ1、中国1、韓国1)に協力を依頼した。

2-3 調査の語彙項目の設定

本稿では最も生産性が高い(姫野 1999 参照)とされる後項動詞「～込む」を調査項目として選定した。「～込む」は、前接する動詞によって多様な意味をあらわし多義的である。調査語彙の偏りを避けるためには、その多義的意味を考慮して語彙を選定する必要がある。そこで姫野(1999)の意味分類を参考⁽¹⁾にし、意味的観点から「～込む」に6カテゴリーを設けた。「～込む」はまず「A.内部移動」と「B.程度進行」に分けられる。さらに「A.内部移動」は移動場所の性質によって「1.閉じた空間へ」「2.固体の中へ」「3.間隙のある集合体へ」と分類される。同様に「B.程度進行」

も「4.固着化」「5.濃密化」「6.累積化」と下位分類される。なおカテゴリーの用語は姫野(1999)にしたがった。そしてそれぞれのカテゴリーに当てはまる語を姫野のリストから4語ずつ選択し⁽²⁾、計24語を調査語彙として選定した。

表1. 調査語彙項目

<24語>

A.内部移動			B.程度進行		
1. 閉じた空間へ	2. 固体の中へ	3. 間隙のある集合体へ	4. 固着化	5. 濃密化	6. 累積化
飛び込む	書き込む	織り込む	寝込む	老い込む	煮込む
入り込む	打ち込む ⁽³⁾	組み込む	黙り込む	冷え込む	泳ぎ込む
飲み込む	埋め込む	炊き込む	考え込む	咳き込む	読み込む
吸い込む	擦り込む	編み込む	話し込む	更け込む	走り込む

3. 調査結果

上記の調査語彙に関するインタビューから延べ72語(24×3)についてのプロトコルが得られた。調査語彙には被調査者にとって既知語も未知語も含まれていたが、未知語(延べ39語)に対しては「どのようにして意味を推論しようとしていくか」について、また既知語(延べ33語)に対しては「どのようにして覚えたか。」について聞いたものである。3-1で研究課題(1)「非母語話者はどのような方略を用いるか。」について報告し、3-2で研究課題(2)「どの側面がむずかしいか。」について報告する。

3-1 研究課題 (1) 複合動詞理解にどのような方略を用いているか。

以下にプロトコル例を示しながら、複合動詞の意味理解方略についてみる。

プロトコル例(1): 「入り込む」

(M=筆者、I=被調査者)

<p><産出された例文> ?遅れたので教室に走って入り込んだ。</p>	
M:	「入り込む」は知ってる?
I:	「入り込む」は使ったことないんですけど。
M:	使ったことない?でも、どんな意味か想像できる?
I:	うん。想像はできるかな。
M:	どんな風にして想像したの?今。
I:	漠然と、「込む」が「はいる」で、「入り込む」の「はいる」は知っている単語だから、 <u>だいたい、その中に入り込むのかな?って。①</u>
M:	あーあーあー、入り込むのかな?って。じゃ、ちょっと例文作ってみて。
I:	うん、「その仲間に…」「はいる」か、これは。「入り込む」は言えないか。ちよっと待って。「入り込む、入り込む…」 <u>「教室に走って入り込む。」</u>
M:	教室に走って入り込む?

I: うん。「教室に入り込む」。いきなり入り込む。
M: いきなり入り込む？ 誰が？
I: Aという人が。
M: Aさんが教室に入り込む？その人、学生？
I: うん、学生。急いでこう…。
M: 急いで？遅れたから？
I: うん、遅れて…。
M: あー、なるほどね。分かった。じゃ、「はいる」と「入り込む」で想像の仕方としては、「V1+V2」を足して考えた？
I: うん。(V1とV2を) 足したって感じだなー。②
M: 一番の「飛び込む」も「V1+V2」で考えた？
I: ううん。「飛びこむ」は足してないなー。
M: 「飛び込む」はどうやって考えたの？
I: 一語として…。知ってることばだから。③
M: あ、一語として考えたの。じゃ2番の「入り込む」は知らないことばだったから…。
I: そうそう。うん、そうだね。④
M: あまり使わないことばだから…。V1とV2を足して考えた？
I: うん。普段使うときは、「はいる」で使ってたような気がする。

例(1)では、①②④の発話から未知語「入り込む」に対して V1「入る」の意味に V2「込む」の意味を付加して考えようとしていることがわかる。また③の発話から既知語は「一語」として理解していることがわかる。

プロトコル例(2): 「擦り込む」

<p><産出された例文> ?手を擦り込む。</p> <p>M: 「擦り込む」を知ってる？ I: 初めて。 M: じゃ、この意味をどうやって類推する？類推の方法とどんな意味だと思うかを教えて。まず、例文を作ってみて。 I: 擦り込む、擦り込む…「手を擦り込む。」 M: 「手を擦り込む。」ね。 I: うん。 M: で、どんな意味だと思ってるの？ I: ちょっと、これね、漢字でね。これかなと思うけど…。④ M: 漢字で？えーっとじゃ、「擦る」のほうの漢字で？ I: そう。で、「込む」を足して考えようと思っているけどイメージが浮ばない。⑤ M: それはどうしてイメージが浮ばないの？「擦る」が難しいのかなー。 I: かなー？「擦る」はこれでしょ？（「擦る」のジェスチャー） M: うん、うん、うん。 I: <u>これ（「擦る」のジェスチャー）に、「中にいれる」っていう「込む」の意味をくっつけようとしたら、くっつかない。</u>⑥ M: あー、あー、あー、わかった、わかった。V1とV2を足してみても、いい意味にならないってことね。</p>
--

例(2)では、④の発話にみられるように、未知語「擦り込む」に対してまず「擦る」という漢字から類推しようとしている。次に⑤と⑥からV1「擦る」にV2「込む」を足して意味を類推しようとしている。しかし⑥の発話から二つの意味の結びつきがうまくいかず意味形成ができない様子が窺われる。

以上のような方法で引き出された方略をまとめると、概略表2のようにまとめられる。もちろんこれらの方略は一語につき一つの方略を使っているというわけではなく、一語に複数の方略を駆使しているケースがほとんどであった。

表2. 複合動詞の意味理解方略

	未知語に対する方略	既知語に対する方略 (#は未知語と共通)
I. 「V1+V2」の組み合わせからの理解	①V1の意味からV2の役割を類推する。 例：【入る】と【入り込む】 ----プロトコル例(1)	#①V1の意味からV2の役割を類推する。 例：【飛ぶ】と【飛び込む】
	②V1の漢字や意味から類推。 例：【擦る】から【擦り込む】を類推。----プロトコル例(2)	
	③V1とV2の意味を母語に置き換えて類推。 例：【編む】と【込む】から【編み込む】	
	④「単純動詞」とは意味が違うと理解して類推する。 例：【話す】と【話し込む】	#②「単純動詞」とは意味が違うと理解して類推する。 例：【炊き込む】【煮込む】など。
	⑤他の類似した既知複合動詞から 例：【書き込む】から【読み込む】	
		③対象(目的語)が違うと考えて。 例：【飲む】と【飲み込む】
II. その他	⑥既知名詞から類推。 例：【煮込み料理】から【煮込む】	#④既知名詞から類推。 例：【冷え込み】から【冷え込む】
		⑤日本人の話すのを聞いたり読み物でみたりして一語として。 例：【書き込む】【打ち込む】など。
		⑥辞書で対訳をみて。 例：【寝込む】など。
		⑦日本人に聞いて。

表2に示したように、本調査からは未知語に対して二種六類、また既知語に対し

ては二種七類の方略が観察された。未知語に対する方略と既知語に対する方略は若干異なっている。まず「未知語に対する方略」についてみる。未知語の場合「V1+V2」の組み合わせで意味を推測するだろうことは予測できないことではないが、具体的にはさまざまなバリエーションが観察された。表2（左側）のうち「①V1の意味からV2の役割を類推する」を例にとると、一人の被調査者は「まずV1の意味を理解して「込む」の意味を考える。「入る」と「入り込む」では後者は範囲が限定されている感じがする。」【韓国語母語話者】と答えている。また別の被調査者は、「まずV1とV2に分けて理解しようとする。でも二つの動詞の意味を足してもうまく行かないと類推できない。たとえば「飛び込む」は類推がうまくいくが、「坐り込む」はうまく行かない。つまり「中へ」がはっきりしているときはうまくいくが、そうじゃない時は困る。この時は自分では使わない。」【タイ語母語話者】と答えている。また「③V1とV2の意味を母語に置き換えて類推」を例にとると、「慣れている語は一語として理解しているが、初めての語は母語で理解しようとする。」【中国語母語話者】、そして「中国語で考えて分からない時は、辞書を引くか例文を作ってみて日本人に直してもらおう。」と答えている。次に「既知語に対する方略」についてみると、「既知語に対する方略」では「⑤日本人の話すのを聞いたり読み物でみたりして文脈から覚えた」と答えたケースが最も多かった。また「⑥辞書で対訳を見て」については、辞書を引くのは「V1の意味がわからなかったり類推ができない時」また「文脈で理解した語を確認する時」【韓国語母語話者、中国語母語話者、タイ語母語話者】であると答えた。また「単純動詞と複合動詞の意味の違い（例：「坐る」と「坐りこむ」）を知りたい時も辞書を引いたが、この場合は辞書を引いても説明が足りないことが多い」【タイ語母語話者】と述べている。

以上、複合動詞の意味理解（または類推）に関して今回の調査で分かったことは次の四点である。

- (1) 初めての語は「V1+V2」の組み合わせで理解しようとする傾向が強いが、「V1+V2」方略での理解の仕方にはバリエーションがある。
- (2) 初めての語は母語を介して推測しようとする傾向がある。
- (3) 「慣れている語」は一語として理解している。
- (4) 辞書を引くのはV1の意味が分からない時や「単純動詞」と「複合動詞」の意味的差異を確認したい時などである。但し後者については辞書は役に

立たないことが多い。

3-2 研究課題(2) 「～こむ」の多義的意味のうち、どの側面が困難か。

前節では、未知語の意味の推論方略と既知語の意味理解方略についてみ、「～込む」のような高生産後項動詞と結合する複合動詞が未知語である場合、その意味を推論する時 V1 の意味に V2 の意味を加算するという方略を用いる傾向が強いことを確認した。しかしながら、この方略はいつも成功するとはかぎらないことが本調査で明らかになった。ではどのような場合成功し、またどのような場合成功しないのだろうか。本節ではこれらの方略を用いた場合、どの側面が困難であったかについてみる。「どの側面が困難か」については、産出された例文の適否をその判断基準として分析した。以下の表は調査語彙表(表1)を表3として再掲したものである。調査語彙 24 語のうち一人でも未知語であると報告した語は斜体であらわしてある。また未知語であると報告した人数は括弧内の数字であらわしている。

表3. 「～込む」

<24 語>

A.内部移動			B.程度進行		
1. 閉じた空間へ	2. 固体の中へ	3. 間隙のある集合体へ	4. 固着化	5. 濃密化	6. 累積化
飛び込む(0)	書き込む(0)	<i>縫り込む(3)</i>	寝込む(0)	<i>老い込む(3)</i>	煮込む(0)
入り込む(2)	<i>打ち込む(1)</i>	<i>組み込む(3)</i>	<i>黙り込む(2)</i>	冷え込む(0)	<i>泳ぎ込む(3)</i>
飲み込む(0)	<i>埋め込む(1)</i>	炊き込む(0)	考え込む(0)	<i>咳き込む(1)</i>	<i>読み込む(3)</i>
<i>吸い込む(2)</i>	<i>擦り込む(3)</i>	<i>編み込む(2)</i>	<i>話し込む(3)</i>	<i>更け込む(3)</i>	<i>走り込む(3)</i>

まず未知語(斜体)についてみる。表4は未知語であると報告された語とその人数、さらに産出された例文とその文が適切か否かを示したものである。ここでは例文が適切であれば未知語の意味類推が成功したと考え、非適切文であれば類推は成功しなかったとして論を進める⁽⁴⁾。

表4. 未知語についての産出文

未知語	産出された例文 ()内は被調査者コメント	判定
入り込む(1)	1.遅れたので教室に走って入り込んだ。(「急いで」とコメント)	×
吸い込む(2)	2.都会に住んでいる人は排気ガスをたくさん吸い込んでいる。	○
	3.空気を吸い込む。	○
打ち込む(1)	4.この論文は昨日からパソコンに打ち込んでいる。	○

埋め込む _p (1)	5.穴埋めを埋め込んでください。	×
擦り込む _p (3)	6.リングを擦り込んで食べる。	?
	7.手を擦り込む。	×
	8. 産出なし	×
織り込む _p (3)	9.違った色の糸を織り込んでしまった。	○
	10. 産出なし	×
	11. 産出なし	×
組み込む _p (3)	12.部品を組み込んでラジオを作る。（「組み立てること」）	×
	13.グループを組み込む。	×
	14. 産出なし	×
編み込む _p (2)	15.セーターを完成するために続きを編み込む。（「最後まで編むこと」）	×
	16.セーターを一針一針編み込んでいく。（「しっかり編むこと」）	×
黙り込む _p (2)	17.彼女に振られて彼はずっと黙り込んでいる。	○
	18. 産出なし（「黙る」と同じとコメント）	×
話し込む _p (3)	19.久しぶりに会ったので2時間も話し込んでいた。	○
	20.彼は政治のことで話し込んでいる。（「話題の中に入っていく感じ」とコメント）	?
	21.彼女の悩みについて話し込んでいる。（「話題の深いところまで話をする」とコメント）	?
古い込む _p (3)	22.彼は数年間でずいぶん古い込んでしまった。	○
	23.売げたりぼけたりして人は古い込んでいく。	○
	24. 産出なし（「老いていくと同じ意味？」とコメント）	×
咳き込む _p (1)	25. 産出なし	×
更け込む _p (3)	26.冬は早く夜が更け込む。（「暗くなる」の意味とコメント）	×
	27.こうもりが家へ帰ったから夜が更け込んできた。（「暗くなること」とコメント）	×
	28. 産出なし	×
泳ぎ込む _p (3)	29.彼は朝の9時から今まで集中して泳ぎ込んでいる。（「集中して泳いでいる」とコメント）	?
	30.3時間も泳ぎ込んだから足がしびれちゃった。	?
	31. 産出なし（「泳ぐ」は水の中に入るので「込む」は不要だと思うと述べ、「深く潜ること？」とコメント）	×
読み込む _p (3)	32.この本は難しいので未だに読み込んでいる。	?
	33.テストがあるのでこの本をしっかりと読み込んでください。（「しっかりと読んで内容を頭に叩き込むこと」とコメント）	?
	34.彼は最近、小説を読み込んでいる。（「集中して読んでいる」とコメント）	?
走り込む _p (3)	35.彼は最近ダイエットで、ホームウォーキングで3時間ずつ走り込んでいる。（「目標があって、集中して」とコメント）	○
	36.祭りの列に走り込んで楽しんだ。（「飛び込む」と同じ意味とコメント）	×
	37. 産出なし	×

表4に示したように、未知語であると報告された延べ37語のうち意味の類推に成功した語（産出文に○を付したものは延べ10語であり、不成功に終わった語（産出文に×または？を付したものは延べ27語であった。ここで得られた結果を姫野（前掲）の分類から一般化して説明することはむずかしい。一般的には、プロトタイプ理論に依拠した習得研究の知見が示すように、「～込む」の意味が具体的であ

るほうが抽象的である場合より類推が容易であると予想される。しかしながら、それだけではこの結果は説明できない。たとえば、「A-1.閉じた空間へ」の移動をあらわす「～込む」はもっとも具体的な意味をあらわしている。「A-1.閉じた空間へ」の4語のうち「吸い込む」と「入り込む」が未知語とされた。「吸い込む」（二人が未知語と報告した）は二人ともうまく類推できたが「入り込む」（同）はうまく意味類推ができなかった。一方「B-5.濃密化」をあらわすカテゴリーの「込む」の意味は抽象化されている。このカテゴリーは4語のうち「老い込む」（三人）「咳き込む」（三人）「更け込む」（三人）が未知語であったが「老い込む」は二人が成功し「咳き込む」「更け込む」は成功しなかった。つまり、非母語話者の用いる「V1+V2」方略はかならずしも成功するものではなく、また成功するかしないかは、後項動詞「～込む」の意味が具体的か抽象的かによって決まるのではないことが推測される。では何に起因しているのだろうか。以下成功しなかった項目を数例取り上げ、それらの特徴について述べてみたい。

<入り込む>：「入り込む」は前項動詞「入る」も後項動詞「込む」も「中へ」という意味を含む、という特徴をもつ。実際、ある被調査者は「入り込む」「飲み込む」は「入る」「飲む」も「中にはいる」「中にいれる」ことなのになぜ「込む」をつけるか分からない」と答えている。

<埋め込む、擦り込む、織り込む、組み込む、編み込む>：これら5項目の特徴は、「穴を埋める」→「穴にカプセルを埋め込む」、「手を擦る」→「手に軟膏を擦り込む」、「布を織る」→「布に模様を織り込む」、「予定を組む」「予定に〇〇を組み込む」、「セーターを編む」→「セーターに名前を編み込む」のようにヲ格が場所をあらわすニ格に変わりうることである。そのため、V1の動詞と共起する名詞を考え、そのまま「～込む」文に適用しようとする「手を擦り込む」「グループを組み込む」のような非適切文につながりやすい。

<泳ぎ込む、読み込む、走り込む>：これらの項目は姫野分類の「累積化」の用法である。この用法について姫野(1999:72)は「時間をかけてその行為を重ね(累積し)、人の技や対象とする事柄の質を向上させるものであり、この場合ははっきりした目的があるのが普通で、「～に備えて」「～をめざして」「～のために」というような言葉が用いられることが多い」と述べている。上記3項目のうちこの用法のニュアンスを正確に捉えているのは例文「35」だけである。

次に既知語についてみる（表5）。調査語24語のうち、一人でも既知語であると報告した語は14語あった。既知語に関しては概ね適切文を産出したが、いくつか非適切文も産出された。ここでは産出された文が適切文であったものは割愛し、非適切文であると判定した例文のみを表5に記すことにする。括弧内の数字は既知語であると報告した人数をあらわす。たとえば「飛び込む」は3人が既知語であると報告し、そのうち非適切文を産出したのは一人であったため、例文は一例となっている。既知語とされた項目は、表5の5語の他に「吸い込む、打ち込む、炊き込む、寝込む、黙り込む、思い込む、冷え込む、咳きこむ、煮込む」の9語であったが、すべて適切文を産出したので割愛する。

表5. 産出された例文

既知語	産出された例文	判定
飛び込む(3)	1.泥棒が人込みの中に飛び込んで消えてしまった。	×
飲み込む(3)	2.お酒を飲み込んだ。	×
入り込む(2)	3.パレードの列の中に入り込んで楽しんだ。	×
書き込む(3)	4.自分の意見についてずっと書き込んでいる。（「長い時間をかけて」とコメント）	×
埋め込む(2)	5.括弧の中に埋め込んでください。	×
	6.大きい穴だから埋め込む時間がかかりかかった。	×

既知語についても、表5に示したような非適切文が産出された。まず「飲み込む」「入り込む」についてであるが、これらは未知語のところで述べたように、V1もV2も「中にはいる／いれる」ことを意味する複合動詞である。既知語であると報告しながら非適切文が産出されたということは、これらの項目は言葉を知ってはいても単純動詞「飲む、入る」との意味的差異や対象の制約についての理解が十分でないことが推測される。「4.自分の意見について書き込んでいる」という例文を産出した被調査者は、「書き込む」は「長い時間をかけて書く」意味だと理解していた。また「埋め込む」の誤用は、移動場所を容易の喚起できなかったことによる誤用例であると考えられる。すなわち「括弧を埋める」「大きい穴を埋める」の連想から「5.括弧の中に埋め込んでください」「6.大きい穴だから埋め込む時間がかかりかかった」という文を産出したと考えられる。以上を踏まえると、「～込む」につながる複合動詞の中で習得が困難な側面として、以下の点が挙げられる。

①単純動詞と複合動詞の差異がはっきりしないものはむずかしい。

②V1 から「～込む」の移動場所が容易に喚起できない場合はむずかしい。

③累積化「～込む」の意味はわからない。

「累積化」をあらわす「～込む」は、日常生活で使用頻度の高い「煮込む」を除いてほとんどできなかった。これは「～込む」の用法として「累積化」用法を学習する機会がなくインプットされてないこと（被調査者のプロトコルによる）がその要因として挙げられるが、この用法は場所をあらわす二格を取らず、「～の中に」という意味をもつ「～込む」のプロトタイプの意味から遠いことも困難な要因であると推測される。

4. おわりに

国立国語研究所の『複合動詞資料集』（野村・石井 1987）によると、「～込む」と結合する複合動詞は 231 語ある。この数字からもわかるように、「～込む」のような生産性の高い後項動詞と結合する複合動詞を習得する場合、一つずつ覚えることは効率的な方法とはいえない。これらの複合動詞を効率的に学ぶためには、学習者が intake した後項動詞の意味知識を概念化し、それを未知語にも応用することが効率的な方法である。その際、被調査者たちがやっていたように V1 の意味と V2 の意味を引き込み合いながら理解することは有効な方法である。しかし非母語話者が複合動詞の意味理解に「V1+V2」方略を用いて理解しようとしているだろうことはまったく予想できないことではないとしても、具体的にどのようなことをおこなっているか、その方略は有効に働いているか、またもしその方略が有効に働いていないとすればどのような側面に有効でないか（＝どこがむずかしいか）については、今までのところ、明らかにされていなかった。本稿では、探索的な試みながら、姫野モデルを使って調査語彙項目 24 語を選定し、三人の超上級者を被調査者として「V1+V2」方略に七種のパターンを抽出した。また、産出された例文の適否から、それらの方略が有効に働きにくい側面を指摘した。

今後は、ここで明らかになった学習方略とその有効性／非有効性についての調査を深め、効果的な複合動詞教育の可能性を探っていきたい。

【注】

- (1) 姫野(1999:62)は、「内部移動」を「①閉じた空間への移動」「②固体の中への移動」「③流動体の中への移動」「④間隙のある集合体への移動」「⑤動く取り囲み体への移動」「⑥自己内部への移動」「⑦その他」の7項目に分けているが、本稿ではその中、「内部移動」の移動先のプロトタイプ性を考慮して比較的典型的であると思われる①②と非典型的であると思われる④を扱った。
- (2) 本調査に先立ち、アンケートにより留学生12人に「よく使う複合動詞」を自由記述してもらった。選定された語彙は基本的にはアンケートで産出された語彙を選んでいるが、アンケートで産出された語彙をカテゴリーに当てはめるとかなりの偏りが見られたため、たまたま産出されなかったカテゴリーについては筆者が恣意的に選んだ。
- (3) 「打ち込む」は、「ワープロに打ち込む」「仕事に打ち込む」のように多義的であるが、ここでは姫野の分類に従った。
- (4) 適否の判定は、2名の日本語母語話者によって判定された。「？」印は判定が揺れたり、あるいは文としては適切であると判定されたが、被調査者のコメントと照らし合わせると、ニュアンスが異なると判定されたものを示している。

【参考文献】

- (1) Oxford, R. (1990). *Language Learning Strategies: What every teacher should know*. New York: Newbury House Publishers.
- (2) 野村雅昭・石井正彦(1987) 『複合動詞資料集』 国立国語研究所報告
- (3) 姫野昌子(1999) 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房
- (4) 宮崎里司他(1999) 『日本語教育と日本語習得』 くろしお出版
- (5) 森田良行 (1978) 「日本語の複合動詞について」 『講座日本語教育』 14 早稲田大学日本語教育センター
- (6) 横須賀柳子(1999) 「語彙及び漢字習得方略の研究」 『日本語教育と日本語習得』 くろしお出版

(東京学芸大学留学生センター非常勤講師)

Acquisition of Compound Verbs in Japanese by Advanced Learners of Japanese : Learners' Strategies of Comprehending the Meanings of Compound Verbs

FUMIKO Matsuda

It has been pointed out that Japanese compound verbs are among the most difficult items to acquire (Morita 1987, Himeno 1999). Thus far, few empirical studies have been conducted to reveal what strategies language learners employ to comprehend the meanings of compound verbs and especially what aspects of compound verbs are difficult. This exploratory study addressed these questions on the empirical ground.

This study focused on Japanese “-komu”, probably the most productive verbal suffix to form compound verbs. 24 compound verbs using “-komu” were presented to three advanced learners of Japanese along with a set of questionnaire items, which were designed to elicit the target responses in intensive interview session.

The following was the most typical strategy: Add the meaning of V2 to the meaning of V1 in combination of V1+V2. Learners tend to take the meaning of V2 to be “enter”. This study, however, shows that this strategy is not effective in many cases, such as “hairi-komu”, where “hairu” also means “enter”, and “oyogi-komu”, where the combination of “swim” and “enter” does not make sense. Identifying the trouble spots of learning the compound verb using “-komu”, the author discusses why they are difficult.

(International Student Exchange Center, Tokyo Gakugei University)